

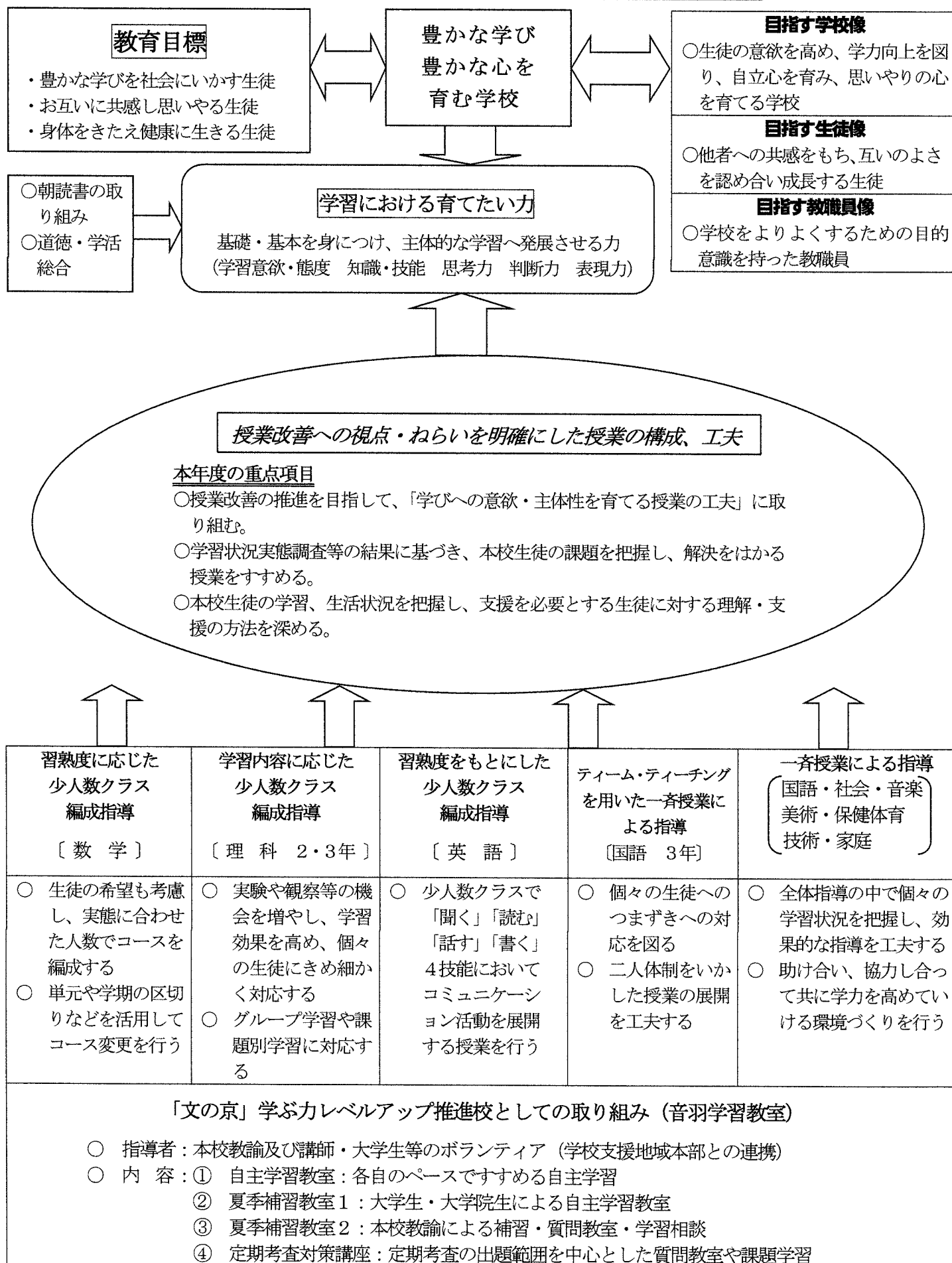
平成30年度

授業改善推進プラン



文京区立音羽中学校

平成30年度 学力向上に向けた全体計画



国語

科

1

年

担当者 伊藤 翔

(国語) 科からみた生徒の現状

一生懸命に取り組み、授業態度は良い。発表やグループワークで恥ずかしがらずに話せる生徒が多いが、作文や感想を書くことを苦手とする生徒も多い。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・「書く」分野を苦手とする生徒が多い。定期テストの記述問題に未記入の生徒がいる。
- ・内容を聞きとり、記録する力は定着しているが、発表などの表現力に課題がある。
- ・漢字の読みは得意だが、書きを苦手とする生徒が見られる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・定期試験における「書く」分野で苦手意識をもつ生徒がいる。
- ・発表の構成を意識して話す生徒が少ない。
- ・漢字の課題は熱心に取り組むが、定着化が低い。

教師の指導のあり方

- ・毎時の学習の振り返りを文章で書かせることで書くことの習慣付けをする。
- ・「序論・本論・結論」を意識させて発表原稿を作らせる。
- ・授業では新出漢字を丁寧に扱い、課題の進め方を見直し、悪い点を改善する。

(国語) 科の目指す生徒像

学んだことを自分の言語生活に活かし、表現を豊かに伝えることができる生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘り強く取り組み、力を伸ばそうとする生徒。

教師の手立て

(国語) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・漢字小テストを毎週実施し、課題に粘り強く取り組む姿勢を養い、漢字を書く習慣作りを図る。 ・グループワークやペアワークで多角的・多面的な見方をもてるようにする。	・授業の振り返りを必ず学習の中に取り入れ、1時間で身につけた力を実感させ学習意欲へとつなげる。 ・導入では生徒の身近な話題に触れ、生活との結びつきを意識させ学習への意識を高める。	・毎時、ねらいを明確に提示して目的をもちながら学習に取り組む。 ・アクティブボード、書画カメラ等を用いて図や文字を効果的に見せる。 ・既習事項との関連を図ることで基礎と応用力をつける。

数学

科

1

年

担当者 小宮山雄斗 石井佳子

千代啓介

(数学) 科からみた生徒の現状

意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多いが、計算力や基礎的な知識が定着していない生徒もあり、理解度の差が大きい。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・計算力は、基礎的なことは定着しているが、知識活用し、的確に処理する力は十分とは言えない。
- ・目標値は達成できているが、文章問題等条件を読み解く力が全体的に低い。
- ・数学的な思考を用いて物事を考え、自分自身の考えを表現することに意欲的である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・授業規律は保たれている。
- ・授業に対して、主体的に取り組む生徒が多い。
- ・知識・技能を活用した、文章問題を苦手とする生徒が多い。
- ・課題提出は90%以上の生徒ができている。

教師の指導のあり方

- ・教師間で授業規律を確認し、定着を図っている。
- ・授業中に生徒が発言や発表する機会を多く設ける。
- ・習熟に応じた指導を実践し、数学的理解を深めさせ、数学を学ぶ楽しさを実感させる。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程で知識・技能を活用しながら、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

教師の手立て

(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・習熟に応じて計算や基本的な問題を繰り返し行う。 ・単元テストや確認テストを定期的実施し、生徒の理解度や課題を把握する。 ・授業の振り返り等を活かし、家庭学習につなげる。	・学習のねらいを明確にし、授業に取り組みやすくする。 ・数学的活動を生かした指導を一層重視し、数学の楽しさや有用性を実感させる。	・習熟の程度に応じた発問やワークシートなどを工夫する。 ・ICT 機器を効果的に活用し、課題に対する見通しを持たせ、生徒の数学的な活動を深めるための手立てとする。

生徒の実態

(英語) 科からみた生徒の現状

英語に関心や興味を持つ生徒たちが多く、たいへん意欲的に取り組む生徒が多い。

学力調査等の
課題分析

・1学期定期考査において「聞く力」の問題では満足がいく結果になったが、「書く力」の問題では課題が残った。「音」と「文字」を結びつける力が未熟であると思われる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・ペアワークやグループにおける協同学習は意欲的であるが、個人学習では学習方法が分からない生徒がいるので自立した学習習慣を身につけさせたい。

教師の指導のあり方

・学習者が学び方を選択できるように提示する。
・授業者がファシリテーターになるよう心がける。

(英語) 科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感を持ち、問いを持つ思考力を持ち、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。
特に「話す、書く」活動を通じて、自分の考えを持ち、発信できる生徒。

教師の手だて

(英語) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・まず全員が教科書を正しく音読できるようにする。 ・読めるようになったことを書けるように支援する。	・自立した学習者を育てるために、学び方を複数提示し、選択できるようにする。 ・ペアワーク、グループワークのメンバーを固定しない。	・身についた力を「視える化」するためにスピーチやプレゼンテーション、協同学習のプロジェクトを学期に2回は実施する。

社会

科

1

年

担当者 入子彰子

（社会）科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心が高く、様々な課題に対して意欲的に取り組み解決しようとする生徒が多い。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・目標値より8ポイント、区
の平均正答率より3ポイント
ほど高い。特に資料活用の技
能に優れているが個人差もみ
られ、知識や理解の定着の差
が大きい。
- ・基本的な社会的事象の知識
が確実に身につけていない生
徒が多い。
- ・さまざまな資料から読み取
って考え、表現する力が不足
している。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況 教師の指導のあり方

- ・授業に対する意欲や
関心が高く、生徒の多
くが楽しく授業を受
け、一つ一つの作業
にも丁寧に取り組
む姿勢が見られ
る。
- ・ノートを取り方
や発言方法などの
授業規律が確立し
てきた。
- ・ノートを板書できな
かったり、指示を聞き取れ
ない生徒への個別の対
応が必要である。
- ・生徒の思考力や表現力
を高める授業の工夫や
新たな教材開発に取り
組み、いろいろな方法で
授業に変化をつける。

（社会）科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用し、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

教師の手だて

（社会）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・重要事項のポイントをわかりやすく示し、繰り返し発問したり、演習して定着をはかる。 ・小テスト、プリントなどを活用し、基礎事項の確認をしながら定着をはかる。	・学習の成果や自分の取り組みを確認するために学習カードを活用し、細かく評価することで意欲を喚起する。 ・ワークやプリントなどの日頃の取り組みをフィードバックする。	・発言の機会を増やし全員を授業に参加させることで活気ある授業にする。 ・資料の読み取り等の課題で協働学習を取り入れ生徒が学びを共有出来るよう工夫する。

生徒の実態

(理科) からみた生徒の現状

前向きに取り組んでいる生徒が多い。
自分から意見や考えを外へ発信することへの苦手意識がある。

学力調査等の 課題分析	授業等の課題分析
生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
基礎的な内容や理科用語については身についているが、理由を説明し、結果や条件をもとに答える問題を苦手とする生徒が多い。	- 毎時の授業内容は理解している生徒が多い。 - 宿題やワークシートの仕上がり程度にばらつきが出ている。 - 自分の考えを発表することに苦手意識をもった生徒が多い。
	- 実験や観察のまとめ(グラフ作成や図で示す)などを個別に確認する。 - グループの中で互いに予想や結果を発表し、生徒の意見や考えが出るような工夫が必要である。



(理科) の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に予想を立てて科学的な思考のもとに検証して理解を深め、応用ができる生徒

教師の手だて

(理) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]		
基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
導入として前時の内容を、小テストなどを実施して復習をくり返し、理解の定着をすすめるよう授業展開する。	- 最新の科学的なトピックを電子黒板の画像や動画を利用して紹介し、授業への関心・意欲を高める。 - 身近な自然現象や日常生活と関連づけた実験・観察の機会を多く設定する。	- 視聴覚教材や模型、標本などを上手く使い、自然現象がイメージできるように工夫する。 - 意見発表の時間を設定し、自分の意見をまとめたり、他のグループの結果を聞いて自分の意見を考察するように取り組ませる。

生徒の実態

(音楽) 科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

実技テスト等の
課題分析

- ・落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。
- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解しているが練習量の違いで演奏には差がある。
- ・記号の知識、理解や表現力に、個人差がある。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞において前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| ・全体的にまじめに取り組むが、その姿勢には、個々に差がある。 | ・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 |
| ・入学前から苦手意識があり、できないとすぐに諦めてしまう傾向がある。 | ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するような助言や指導の工夫を考えていく。 |
| | ・言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。 |

(音楽) 科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうとする姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

(音楽) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、美しいハーモニーと言葉の意味を考え音楽的で豊かな表現を目指す。	・2重奏などを用いてアンサンプルの楽しさを合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つける。	・授業内で一斉にパート練習を行い、時間を有効に使う。 ・生徒自身が目標を設定し課題が解決できるように助言を与え完成度の高いものを目指す。

教師の手立て

美術

科

1

年

担当者 大島 秀信

(美術) 科からみた生徒の現状

授業に集中して意欲的に取り組んでいる。全体として取り組みはよい。自分の思いを表現する力が不足している生徒もいるが、積極的に制作しようとして取り組んでいる生徒もいる。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

- ・基礎的・基本的な知識や技術は理解している。
- ・課題内容を理解している生徒が多く、前向きに取り組もうとしている様子がうかがえる。
- ・作品の完成度が高く達成感を味わい自分なりに満足している。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体的にまじめに取り組む、アイデアや制作方法を工夫し、考えて丁寧に制作している。
- ・学習した知識や技術を生かして制作しようとしている。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・発言や質問をしやすい授業を工夫し、発想や構想の拡がりを図る。
- ・個々のつまずきや問題点に助言し、技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。

(美術) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の手だて

(美術) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・技法や道具の使い方を課題に応じて身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わい方を学習させ、潤いのある生活意識を育む。	・様々な素材の触感や道具の扱いを楽しむ時間を設定し、造形への構想を広げる ・発言や質問を導き、工夫や改善の手立てを考案し、達成感を味わわせる。 ・的確なアドバイスと丁寧な評価。	・本時の目標を明確にし、板書を工夫して本時の展開をわかりやすく示す。 ・生徒一人一人に応じた指導を行う。

保健 体育

科

1
(女子)

年

担当者 佐々木 真衣

(保健体育) 科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多い。様々な種目に対して意欲的に取り組み、向上心もある。一方で、運動機会が少く、基礎体力に欠ける生徒もいる。

生
徒
の
実
態

実技テスト等の 課題分析

- ・体を動かすことが好きな生徒が多い。
- ・様々な種目を通し、基礎体力や基礎的な運動スキルを身に付け、高める必要がある。
- ・お互いにアドバイスし合い、模倣し、改善する能力が必要。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に取り組む姿勢は良好であるが、学んだことや振り返りは、十分にできている生徒とできていない生徒の差がある ・集団の中で、指示を聞き、理解して行動に移せない生徒もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動量を確保するため、簡潔にわかりやすい説明や指示を工夫する。記入しやすい学習カードの工夫が必要である。 ・巡回をしながら、全体、個々への指導や助言をしていく。 |

(保健体育) 科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教
師
の
手
だ
て

(保健体育) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・準備体操に加え補強運動を継続して行う ・集団行動を通し、学びあいや規範意識を高め、定着をめざす ・振り返りと繰り返しを徹底し、明確な課題を持たせる。	・学習の内容を理解させ、個人やチームの目標を設定させる。 ・グループ活動を通じて、互いを高め合い「できる」喜びを感じさせる。	・具体的な助言や音楽を使用し、授業スタート時から楽しめる工夫をする。 ・見本や映像を使用して、イメージを持たせ技能の習得を促す。

保健 体育

科

1
(男子)

年

担当者 岡 根 武 志

(保健体育) 科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多く、様々な運動に対して意欲的に取り組み向上心も強い。一方で運動経験が少く、基礎的な運動能力に欠けている生徒もいる。

生
徒
の
実
態

実技テスト等の 課題分析

- ・基礎体力や基礎的なスキルに劣る生徒が多い。
- ・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
- ・お互いに評価し合うことができる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・課題に対して、積極的に取り組む姿勢が見られる。
- ・周囲の状況を見て模倣するところがあるが、自己の課題を見つけていく姿勢が必要。

教師の指導のあり方

- ・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。
- ・上手に運動を行うには、どのような方法がよいか、具体的な指導・助言が必要。

(保健体育) 科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わい、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教
師
の
手
だ
て

(保健体育) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・集団行動を通し、お互いの学びあいと規範意識の定着をめざす。 ・繰り返しと振り返りを交互に行うことで、課題を明確にさせる。	・グループ活動を通し、お互いを尊重して高め合い、協調性とお互いの喜びを感じさせる。 ・生徒のリーダーを活用し、主体的な活動と目標を持たせる。	・具体的な助言や工夫、個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫と能力別グループの形成と活用 ・ICT機器の利用

(技術・家庭) 科からみた生徒の現状

多くの生徒が、関心・意欲が高く、全体的に学習への取り組みが良い。特に作業については、集中して学習に励んでいるが、支援の必要な生徒も各クラスにいる。

生徒の実態

実技テスト等の
課題分析

- ・落ち着いて授業に取り組めているが、作業などにおいて支援の必要な生徒が各クラスにいる。
- ・基礎的、基本的な内容は、定着しているが、課題を解決するために工夫、創造する力や情報活用能力については課題が見られる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着している。
- ・積極的に発言できる生徒が多いが、進んで発言し、質問することができない生徒がいる。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・ICTを活用し、一方的な説明ではなく、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。
- ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように見本を活用し、指導する。

(技術・家庭) 科の目指す生徒像

ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

教師の手立て

(技術・家庭) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・授業のワークシートを工夫し、繰り返し取り組む姿勢を育む。 ・生活の中で興味・関心のもてる教材を工夫し、活用できる作品製作に取り組む。	・ICTを効果的に活用し、作品見本も提示して、基礎的な知識を効果的に理解させ、実習の時間も増やし、関心・意欲を向上させていく。	・グループ学習を取り入れ、互いの意見や知識を発表しあい、新たな気づきや発見を得られるようにする。

生徒の実態

(国語) 科からみた生徒の現状

今年度から始めた継続学習は、ほぼ定着してきている。何を学び、どんな力がついたかをふり返り、主体的な学習につなげている。

学力調査等の
課題分析

- ・無解答はなく、各問題に粘り強く向き合う姿勢がうかがえた。「話す・聞く」の問題では、情報を聞き取り、比較する問題の正答率が低かった。要点をおさえて聞くことを日頃から意識させたい。
- ・「書く能力」の問題は選択問題であり、良くできていた。実際に文章を書くことで定着を図る。

授業等の課題分析

- | 生徒の取り組み状況 | 教師の指導のあり方 |
|--|------------------------------------|
| ・1時間1時間のねらいを達成しようと意欲をもって学習に取り組んでいる。 | ・ねらいと方法を明確にして、学習の成果を実感させることが必要である。 |
| ・学んだことが学習活動全般に生かされているかという点においては、不十分な状況がある。 | ・「わかったつもり」ではなく、十分な理解までに至る学習指導の工夫。 |
| | ・一人一人の学習成果の把握と評価を丁寧に行う。 |

(国語) 科の目指す生徒像

学びを自分の言語生活に活かし、未知の状況にも対応できる思考力判断力、表現力を身に付けた生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘り強く取り組み、力を伸ばしていこうとする生徒。

教師の手だて

(国語) 科の取り組み[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・年間を通した課題設定（自作の漢字学習プリント・四字熟語帳・ふり返りシート・漢字小テスト）により、着実な定着を図る。 ・関連する既習事項の確認を焦点がずれない範囲で繰り返し行う。	・学習前と学習後と比較し、学習の成果を実感できるようにする。 ・学習後に丁寧な評価とアドバイスをを行い、学習意欲を喚起する。 ・グループ学習での学び合いを効果的にすすめる。	・ねらいに応じた授業形態での授業を組み立てること。 ・効果的なワークシート作りやICT機器、新聞の活用。 ・1時間の中に「考える、伝える、書く」場面を盛り込む。

数学

科

2

年

担当者 小宮山雄斗 川俣幹雄

千代啓介

(数学) 科からみた生徒の現状

基礎・基本的な知識・技能は身につけているがそれらを活用して問題を解決したり、数学的に表現し説明したりすることに課題がある。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- 与えられた問題・資料から必要な情報を正確に取り出す力や比較・関連づけて読み取る力に課題がある。
- 計算や関数、図形分野における知識・技能においてはおおむね達成できている。
- 平面図形、空間図形、資料活用の分野に対して苦手意識のある生徒が多い

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- 意欲的に授業に参加する生徒が多い。
- ペア学習やグループ学習で活発に意見交換ができる。
- 課題は9割の生徒が内容も充実させ、提出できている。

教師の指導のあり方

- 生徒の興味・関心を高める教材の提示と各コースの習熟度にあった授業進度、発問を工夫する。
- 家庭学習も定着を図るために、個別の声かけや補習を設ける。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程で、知識・技能を活用し、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

教師の手立て

(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
- 習熟度別コースで、生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎的・基本的な技能の定着を図る。 - テストで既習事項についての問題も出題し、テスト直しレポートなどの課題を通し、理解できるまで繰り返し問題を解く。	基礎コースでは知識技能を中心に扱い問題を解ける自信や解くことの楽しさを実感させる。発展コースでは、発展的な課題を扱い、生徒の知的好奇心を高める。	グループ学習（言語活動）において、互いの意見を比較し、自分と異なる意見について考える活動を通し、数学的な表現能力や、問題、資料を読み取る力、必要な数値を取り出す力を伸ばしていく。

英語

科

2

年

担当者 伊藤 麻里子

(英語) 科からみた生徒の現状

意欲的な生徒が多く、積極的に発言をしたり、大きな声で音読練習を行っている。語彙力、自己表現力に課題がある。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・聞き取り、読みの理解力は向上している。
- ・語彙力に課題があり、言えるけど、書けない。
- ・基礎的な文法事項は理解できている生徒が多いが、be動詞、一般動詞の区別、時制による変化の理解が不十分な生徒もいる。
- ・英文を書こうとする意欲はあるが、スペルミス、文法のミスが多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況 教師の指導のあり方

- ・音読、ペアワークなど積極的に参加している。
- ・授業内では理解しているが、家庭学習が不十分なため定着していない部分がある。
- ・課題を与えないと、英文を書く機会が少ない。
- ・口頭ドリルを徹底している。(言えるようになったら、書く。)
- ・語彙力を強化するため、帯活動で、ビンゴ、単語シートなど必ず毎時間取り組ませている。
- ・自己表現活動やまとまった英文を読む活動が不十分である。

(英語) 科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感をもち、思考力を高め、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。

「話す、書く」活動に重点を置き、自分の考えをもち、発信できる生徒。

教師の手立て

(英語) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・教科書の音読を徹底させる。 ・語彙力向上のため、帯活動を継続し、小テストで定着の確認を行う。 ・英文を書く機会を確保するため、教科書の転写は家庭学習で行わせる。	・音読カード、振り返りカードを利用し、達成感を味わわせ、自己の課題を意識させる。 ・ペアワークを多く取り入れ、仲間と関わり、会話の楽しさや自己表現の実用性を感じさせる。	・間違えても周りが受容する雰囲気作り。 ・発表の機会を多くもち、抵抗感をなくす。(発進力) ・ペアワークにより、人とのコミュニケーション、助け合い、学び合う楽しさを感じさせる。

（社会）科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心があり、真面目に学習に取り組む生徒が増えたが、学習に集中できない生徒もいて全体的な学力の定着につなげていない。

**学力調査等の
課題分析**

- ・無回答がなく真剣に問題に取り組む姿勢が見られた。学習状況に個人差が見られ、知識や理解の定着の差が大きい。
- ・基本的な社会的事象の知識が確実に身につけていない生徒が多い。
- ・さまざまな資料から読み取って考え、表現する力が不足している。

授業等の課題分析**生徒の取り組み状況 教師の指導のあり方**

- ・授業に対する意欲や関心は高く、生徒が楽しく授業を受けている。
- ・ノートを取り方や発言方法、話し合いの手順など授業規律が向上してきた。
- ・ノートを板書できなかつたり、指示を聞き取れなかつたりしている生徒への個別の対応が必要である。
- ・生徒の思考力や表現力を高める授業の工夫や新たな教材開発に取り組み、いろいろな方法で授業に変化をつけるようにする。

（社会）科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用し、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

（社会）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・重要事項のポイントをわかりやすく示し、繰り返し発問し、演習して定着をはかる。 ・プリントのまとめなどを活用し、基礎事項の確認をしながら基礎基本の定着をはかる。	・学習カードを利用して学習の成果を確認し、評価することで意欲を喚起する。 ・ワークやプリントなどを使って、テスト以外の日頃の取り組みについて評価する。	・発言や話し合いの機会を増やし全員を授業に参加させ、活気ある授業にする。 ・資料の読み取り等の課題で協働学習を取り入れ生徒が学びを共有出来るよう工夫する。

理科

2

年

担当者 池田 太一

（理科）からみた生徒の現状

関心・意欲は比較的高いが、集中力が長続きしない。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・理科学用語や法則を知ることができるがすぐに忘れてしまう。
- ・覚えたことを、問題集などを活用し、演習する家庭学習の時間が不足している生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・授業内容は理解している生徒が多いが、授業期間が空くとすぐにわすれてしまう。
- ・授業内容に応じた家庭学習を行わない生徒が多い。
- ・他の教科で学んだ知識を理科で活用することができている。

教師の指導のあり方

- ・実験・観察・ICTを多く取り入れ、生徒の興味・関心を高める授業を進めていく。
- ・過去に学んだことを小テストなどで復習させる。

（理科）の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に仮説をたて、科学的な思考のもとに検証し、理解を深め、応用ができる生徒

教師の手だて

（理）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・小学校や中学1年の復習が必要な場合は、復習しながら授業を展開し、理解の定着をはかる。 ・少人数クラスの利点を生かし、生徒個々へきめ細かい対応を行う。	・実験・観察の機会を増やし、自然現象や日常生活との関連を学べるようにする。	・実験・観察の結果確認や考察など、発表やグループ内での意見交換の機会を増やす。 ・小テストを多く取り入れ、繰り返すことで定着をはかる。

音楽

科

2

年

担当者 岩崎 泰弘

(音楽) 科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解しているが練習量の違いで演奏には差がある。
- ・記号の知識、理解や表現力には、個人差がある。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞すべてにおいて前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体的にまじめに取り組むが、その姿勢は、個々に差がある。
- ・できないとすぐに諦めてしまう傾向がある。
- ・リーダーは徐々に育っている。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するような助言や指導方法を考えていく。
- ・音楽の流れや言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。

(音楽) 科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうとする姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

教師の手だて

(音楽) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、旋律の流れや美しいハーモニーと、言葉の意味を考え、音楽的な豊かな表現を目指す。	・班活動や2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと、合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つける。	・授業内で一斉に班練習やパート練習を行い、時間を有効に使う。 ・生徒自身が目標を設定し課題を解決できるように助言を与え完成度の高いものを目指す。 ・自信をもって声が出せるよう個別指導も行う。

美術

科

2

年

担当者 大島 秀信

(美術) 科からみた生徒の現状

授業に集中して意欲的に取り組んでいて、全体的に取り組む姿勢はよい。自分の思いを表現する力が不足している生徒もいるが、あきらめずに積極的に制作しようとしている。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

- ・基礎的・基本的な内容はほぼ定着している。
- ・技能問題では丁寧に取り組む生徒が多い。
- ・作品の完成度も高く、達成感を味わい、個々に満足いく結果を生み出している生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・基礎的な技術を理解し、豊かな発想を活かし、作品完成に向けて前向きで、制作に積極的に取り組んでいる。
- ・積極的によく発言する生徒も多く、授業の雰囲気をよくしている。

教師の指導のあり方

- ・発言や質問をしやすい環境を作り、発想や構想の拡がりを図る。
- ・個々の課題に適切に助言をし、感性や技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。
- ・悩み躓いているところへ適切に助言し、支援に努める。

(美術) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の手だて

(美術) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・技法、道具の使い方を課題に応じて身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わいを学習させ、潤いのある生活意識を育む。	・学習した技法、技術、発想力を活かし、造形への構想を広げる。 ・発言や質問を導き、工夫や改善の手立てを発想させる。 ・適切なアドバイスと丁寧な評価。	・制作の目標を明確にし、板書を工夫して本時の展開をわかりやすく示す。 ・生徒一人一人に応じた指導を行う。 ・手本を充実させる。

保健 体育

科

2

(女子)

年

担当者 佐々木 真衣 岡根 武志

(保健体育) 科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多い。様々な種目に対して意欲的に取り組み、向上心もある。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

- ・運動が得意な生徒が、苦手な生徒にアドバイスをし、お互いに話し合いながら、活動を進めていくことができる。
- ・様々な種目を通し、基礎体力や基礎的な運動を高める必要がある。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況
・全体的に取り組む姿勢は良好である。しかし、学んだことや振り返りについて、学習カードに十分に記入できていない生徒の差がある。

教師の指導のあり方
・運動量を確保するために、簡潔にわかりやすい説明や指示の工夫をすすめる。記入しやすい学習カードの工夫が必要である。
・巡回をし、全体や個々へのメカニズムの視点から指導や助言をしていく。

(保健体育) 科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

(保健体育) 科の取り組み[授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・準備体操と補強運動を継続して行う ・技能レベルに合わせた指導をする。	・学習の内容を理解させ、個人やチームの目標を設定させる。 ・グループ活動を通じて、互いを高め合い「できる」喜びを感じさせる。	・具体的な助言や音楽を使用し、授業スタート時から楽しめる工夫をすすめる。 ・見本や映像を使用してイメージを持たせ技能の習得を促す。

保健
体育

科

2
(男子)

年

担当者 井上 亨

生徒の実態

(保健体育) 科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多く、様々な運動に対して意欲的に取り組み向上心も強い。一方で運動経験が少なく、基本的な運動能力に欠ける生徒も少なくない。

実技テスト等の
課題分析

- ・基礎体力や基礎的なスキルに劣る生徒が多い。
- ・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
- ・お互いに評価し、教え合うことができる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・課題に対して積極的に取り組む姿勢が見られる。
- ・周囲の状況を見て模倣するところがあるが、自己の課題を見つけていく姿勢が必要。

教師の指導のあり方

- ・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。
- ・お互いに評価、学び合いができるように指導助言する。

(保健体育) 科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わい、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教師の手立て

(保健体育) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・集団行動を通し、お互いの学びあいと規範意識の定着をめざす。 ・振り返りを行うことで、自らの課題を設定させる。	・グループ活動を通し、お互いを尊重し学び、高め合う中で協調性と喜びを感じさせる。	・具体的な助言や工夫に個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫 ・ICT機器の利用

(技術・家庭) 科からみた生徒の現状

ほとんどの生徒が、授業に真剣に取り組んでいるが、授業内容を理解したつもりになっている生徒が見られる。製作・実習には意欲的になれるが、一部に集中力がなく、集中力が長続きしない生徒がいる。

実技テスト等の
課題分析

- ・基礎的、基本的な内容は定着しているが、課題を解決するために、工夫や創造する能力について、課題が見られる。
- ・落ち着いて授業に取り組むが、理解していない生徒がいる。また、支援の必要な生徒もいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着しているが、一部集中力が欠けている生徒がいる。
- ・積極的な活動をしていても理解につなげていない生徒がいる。
- ・進んで発言し、質問することができない生徒がいる。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・ICTを活用し、一方的な説明ではなく、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。
- ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導する。

(技術・家庭) 科の目指す生徒像

ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

(技術・家庭) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・授業での発問やワークシートを工夫し、繰り返し取り組む姿勢を育む。 ・日常生活の中にある事例を授業で取り上げ、技術・家庭科の学習内容が、生活に関連しているという実感をもたせる。	・ICT 機器と作品見本を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させ、実習時間を確保し、関心・意欲を向上させる。	・グループ学習を取り入れ、互いの意見や知識を発表しあい、新たな気付きや発見を得られるようにする。

国語

科

3

年

担当者 小日向 祥平

（国語）科からみた生徒の現状

授業に真面目に取り組んでおり、課題に粘り強く取り組む生徒が増えた。書く力は向上したが、スピーチ等の話す力に課題が見られる。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・全体的に全国や東京都の平均よりも上回っているが、古典分野の基本の定着が望まれる。
- ・意味が明確に伝わる文を書けるように、文法や語彙など、言語に関する基礎的な内容の定着が望まれる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・構成を意識して書くことはできるが、短文でわかりやすく伝えることが苦手である。
- ・発表やスピーチに抵抗を感じ、原稿に頼る生徒がいる。

教師の指導のあり方

- ・「話す」ことに関する力を養う課題を増やしていく。
- ・「書く」ことや「話す」ことの学習において活動の進度に差がある。特に、内容や構成を組み立てる力に課題がある生徒には、推敲する時間や個別指導の時間の確保が必要である。

（国語）科の目指す生徒像

学びを自分の言語生活に活かし、未知の状況にも対応できる思考力判断力、表現力を身に付けた生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘り強く取り組み、力を伸ばしていこうとする生徒。

教師の手立て

（国語）科の取り組み[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・学習したことを応用する場面を設定し、基礎的・基本的な力の定着を目指す。 ・新たな学習に入る際に既習事項を繰り返し復習することで、螺旋的に力をつけていく。	・学習目標を明示することで学習の見通しをもてるようにする。また、丁寧な評価によって課題に粘り強く取り組む力をつけさせ、意欲につなげる。 ・自己評価や相互評価の機会を設け、達成感につなげていく。	・授業形態を工夫し、互いに学び合い、表現し合える場面を設定する。 ・基礎・基本の力を元に思考・判断し、まとめとして表現していくという学習の流れを通じて国語の力を総合的に高めていく。

数学

科

3

年

担当者 川俣幹雄 千代啓介

石井佳子

(数学) 科からみた生徒の現状

数学に対して、勉強が好き、できるようになりたいと肯定的にとらえている生徒が多い。自分の考えを数学的に表現することが苦手である。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

- ・どの分野においても数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い。
- ・計算、図形、資料の活用における知識・技能においてはおおむねできている。関数が苦手な傾向にある。
- ・わからない問題に対して諦める生徒が多い、説明する問題に対しては粘り強く解こうと努力した生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・意欲的に授業に参加する生徒が多い。
- ・昨年度に比べ意欲的に授業に取り組む生徒が増えた。
- ・課題が自力で解決できない生徒がいるので、支援が必要である。

教師の指導のあり方

- ・生徒の興味・関心を高める教材の提示と各コースの習熟度にあった授業進度、発問を工夫する。
- ・わかる喜び、達成感を毎時間もたせ、できる自信や意欲をもたせていく。

(数学) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程でその知識・技能を活用しながら、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

教師の手立て

(数学) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・習熟度別でコースにあった授業進度で進め、基礎・基本的な技能の定着を図る。 ・テストで既習事項についての問題も出題し、テスト直しレポートなどの課題を通して理解できるまで繰り返し問題を解く。	・基礎コースでは知識・技能を中心に扱い解けることの自信や解くことの楽しさを実感させる。発展コースでは、より発展的な課題、数学的な表現で説明する活動を取り入れ、生徒の知的好奇心を高める。	・グループ学習（言語活動）を通して互いの意見を比較し、自分と異なる意見について考える活動を通して、数学的な表現の仕方や、問題、資料の読み取る力や取り出す力を伸ばしていく。

生徒の実態

教師の手だて

(英語) 科からみた生徒の現状

歌や映画、外国人講師との交流など、生の英語を聞くことや文化に関心がある。基礎的な文法事項の習得、反復、継続学習に課題がある。

学力調査等の
課題分析

・文法事項や語彙に関する知識が漠然としており、活用段階でのつまずきが見られる。特に 2 年次の不定詞や動名詞、接続詞が課題である。

・読みとりは楽しんで読み進めることができているが、正確な読みができる段階には達していない生徒もいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・英語の歌や映画を楽しんでいる様子が見られる。 ・スピーキング活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・ペアやグループでの学習に協力し、取り組み、高めあっている様子が見られる。	・文法理解や語彙の小テストを 3 回行ったが、基礎的事項の定着は十分ではなかった。 ・家庭学習を行う取り組みをしているが、提出率は 5 割～6 割であり、自律的な学習への工夫がさらに必要である。

(英語) 科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感を持ち、思考力を高め、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。

特に「話す、書く」活動を通じて、自分の考えを持ち、発信できる生徒。

(英語) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・家庭学習の指導を通じて個に応じた課題を出し、意欲を引き出す工夫をする。 ・1, 2 年の語彙や文法事項の定着を授業中、また小テストなどで確認する。	・単元の題材面を深める教材を使用し、言語と文化への興味を高める。 ・自己表現活動を積極的に行い、外国語を学ぶ意味を実感させる。 ・映画や歌で生の英語や文化にふれ、楽しみながら、言葉と生活を結びつける。	・ペアやグループなどの形態を用いた協同学習を活用し、やりとりのある授業、助け合い、高め合う学習を行う。 ・参加型の授業になるよう、生徒が提案し、意見を言い合う時間を多くする。

社会

科

3

年

担当者 花島 伸一

（社会）科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心が旺盛で、学習意欲も高く、主体性をもち様々な学習に真面目に一生懸命取り組む生徒が多い。

生徒の実態

学力調査等の 課題分析

・社会的な思考力・判断力・表現力で、資料からの読み取りはできるが社会的事象について複数の資料を関連づけて説明する力がやや弱い。
読み取った資料から、問題点を関連づけて表現する力を伸ばしていくことが今後の課題である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況 教師の指導のあり方

・授業に対する意欲や関心が高く、生徒が活発に発言し、前向きに授業に参加している。
・しっかり課題に取り組める生徒が多く自主的な学習にも工夫が見られる。

・生徒の関心・意欲を高められるような授業の工夫や教材の開発に取り組む、いろいろな方法で授業に変化をつけるようにする。
・ノート学習がの定着してきたので継続して指導していく。

（社会）科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用して、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

（社会）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手だて

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・授業の始めに必ず前時の振り返りを生徒の発表をもとにおこなう。 ・既習内容のフィードバックによって基礎・基本の定着をはかっていくとともに、課題のまとめを行う。 ・必要に応じて小テストを実施する。	・授業の中で、DVD の視聴や電子黒板などの ICT を活用して学習意欲を高める。 ・毎時間の授業で生徒が発言する機会を多く設定し、授業への参加を促す。 ・株式学習ゲームを活用して、経済学習の端緒とする。 ・外部講師を活用する。	・発言の機会を増やせるように授業に発問を多く取り入れ、考えを発表させる言語活動を充実する。 ・視聴覚教材を活用して授業の充実を図り、板書をわかりやすく工夫する。 ・小グループで意見交換する場面を増やす。

理

科

3

年

担当者 池田 太一 古川 誠

(理科) からみた生徒の現状

関心・意欲は比較的高いが、自分の意見や考えを發表することが苦手な生徒がいる。

生徒の実態

学力調査等の
課題分析

- ・基礎的な内容や法則についてはある程度身についているが、概念を説明し、理由付けをすることを苦手とする生徒が多い。
- ・1, 2年生の学習内容の復習が不十分な部分が各単元にみられる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・授業規律はしっかりしている。
- ・実験や観察の取り組みも積極的である。
- ・ノートやレポートもていねいに仕上げていく。

教師の指導の在り方

- ・実験や観察のまとめ(グラフ作成や図で示す)などを個別に確認する。
- ・グループの中で互いに予想や結果を發表し、生徒の意見や考えが發表できるような工夫が必要である。

(理科) の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に予想を立てて科学的な思考のもとに検証して理解を深め、応用ができる生徒

(理) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

教師の手立て

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・二学期迄に3年生の内容は終わらせ、3学期は総復習に取り組む。 ・少人数クラスの利点を生かし、生徒個々への指導・助言を行う。	・最新の科学的なトピックスなどを電子黒板の画像や動画を利用し、授業への関心・意欲を高める。 ・身近な自然現象や日常生活と関連づけた実験・観察の機会を多く設定する。	・問題演習など、アウトプットを増やし、くり返すことで理解の定着を図る。 ・意見發表の時間を設定し、自分の意見をまとめ、他のグループの結果を聞いて自分の意見を考察するように組みこませる。

音楽

科

3

年

担当者 岩崎 泰弘

生徒の実態

(音楽) 科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。前向きな生徒がいるので、意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

実技テスト等の 課題分析

- ・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解していて、自主的な練習量が増えた。
- ・記号の知識、理解、表現力に個人差はあるが向上している。
- ・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
- ・実技、鑑賞において前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・全体的にまじめに取り組む、全員が前向きに熱心に練習に取り組んでいる。
- ・あきらめず努力して良いものにしようと目標をもって取り組んでいる。

教師の指導のあり方

- ・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。
- ・諦めずに自ら何度も繰り返し練習するように助言、指導の工夫を考えていく。
- ・旋律の流れや言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現する助言を与えていく。

(音楽) 科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうという姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

教師の手だて

(音楽) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、旋律の流れや美しいハーモニーと言葉の意味を考え音楽的に豊かな表現を目指す。	・2重奏などを用いてアンサンブルの楽しさと豊かな表現、合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気と課題を見つけさせる。	・2重奏を用いてアンサンブルの楽しさと豊かな表現や合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組む雰囲気を作り、課題も見つけさせる。 ・指揮者、伴奏者を中心に音楽表現を考えさせる。

美術

科

3

年

担当者 大島 秀信

(美術) 科からみた生徒の現状

多くの生徒が授業に対し関心・意欲が高く、前向きに取り組んでいる。また、積極的に発言する生徒も多く、和やかに授業が進んでいる。

生徒の実態

実技テスト等の 課題分析

- ・前向きに取り組む、知識的な問題は、達成できている生徒が多い。
- ・ワークシート、作品の点検、採点を繰り返し行うことで作品の完成度が高まる生徒が多く、同時に達成感を味わうことができている。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・多くの生徒が創意工夫し、作品完成に向けて前向きに取り組んでいる。
- ・自分なりの良い作品作りを目指し、発想や構想を繰り返すことで、完成度を高めようと努力している。

教師の指導のあり方

- ・発言や質問しやすい授業を工夫し、発想や構想の広がりを図る。
- ・個々の問題点を適切に助言し、感性や技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。
- ・悩み躓いているところへ適切に助言し、支援に努める。

(美術) 科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

教師の手だて

(美術) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・応用的な技法や、道具の使い方を課題に応じて活用できるようにする。 ・作品鑑賞で美術の味わいを学習させ、潤いのある生活意識を育む。	・表現と鑑賞を関連づけ表現の多様さに気付かせ、発想や構想を広げる。 ・発言や質問を導き、工夫改善の手立てをつかませる。 ・適切なアドバイスと丁寧な評価。	・制作の目標を明確にし、板書を工夫をしながら本時の展開をわかりやすく示す。 ・生徒一人一人に応じた指導を行う。 ・意見交換や相互観賞で発想の広がりを図る。

保健
体育

科

3
(女子)

年

担当者 井上 亨 佐々木 真衣

(保健体育) 科からみた生徒の現状

運動に対する興味・関心は高いが、運動が得意な生徒と苦手な生徒の差がある。全体の中で集中して話が聞けない生徒も見られる。

生
徒
の
実
態

実技テスト等の 課題分析

・どの種目に対しても積極的に取り組んでいるが、得意な生徒と苦手な生徒とに差がある。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

・どの種目に対しても、取り組む姿勢は良好である。
・集中力が続かない生徒もいる。

教師の指導のあり方

・個別支援が必要な生徒に対し、的確なアドバイスや声掛けを段階に応じて課題を設定する。

(保健体育) 科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

(保健体育) 科の取り組み[授業改善の具体策の視点]

教
師
の
手
だ
て

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・習熟度に応じた段階的な指導。	・毎時間、ねらいに対する課題を設定させ、技能向上過程で自分の課題に気付かせる。	・具体的な助言や工夫した学習カードを使用して振り返りを行い、課題を設定させる。 ・グループ活動を取り入れ課題解決のための話し合いや教え合いを促す。

保健 体育

科

3

年

担当者 岡 根 武 志

（保健体育）科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多く、運動に対して前向きで意欲的に取り組むことができる。その反面運動に得手不得手がある生徒が多く、何事にも前向きにチャレンジしていく事が課題である。じっくりと考えて課題に取り組むことのできる生徒も多い。

生
徒
の
実
態

実技テスト等の 課題分析

- ・運動能力の高い生徒と低い生徒に差がある。
- ・運動の種目によって得手・不得手がはっきりしている。
- ・体育実技を楽しみにしている生徒が多い。
- ・お互いに評価し合うことができる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況

- ・個々の技能レベルにあった課題に取り組む姿勢が見られる。
- ・お互いに教え合う人間関係ができています。

教師の指導のあり方

- ・各自の課題を認識できるように指導、助言していく。
- ・お互いに教え合う場面を意図的につくる。

（保健体育）科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わい、知識・技能・体力を高め、向上心、責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教
師
の
手
だ
て

（保健体育）科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・集団行動を通し、お互いの学びあいと規範意識の定着。 ・繰り返しと振り返りを交互に行うことで課題を明確にさせる。	・グループ活動を通し、お互いを尊重し高め合う態度と姿勢を身につけさせる。 ・個々に課題を設定し、自分の技能に応じた課題設定をさせる。	・具体的な助言や工夫した個別支援が必要な生徒への手助け。 ・グルーピングの工夫と能力別グループの活用 ・ICT機器の利用

(技術・家庭) 科からみた生徒の現状

ほとんどの生徒が、授業に真剣に取り組んでいるが、授業内容を理解したつもりになっている生徒が見られる。製作・実習には意欲的になれるが、一部に集中力が長続きしない生徒がいる。

実技テスト等の
課題分析

- ・基礎的、基本的な内容は定着しているが、課題を解決するために工夫、創造する力や情報活用能力については課題が見られる。
- ・落ち着いて授業に取り組むが、理解につながっていない生徒がいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着している。	・自らの課題を見つけ、解決方法を工夫改善して実習に取り組ませる。
・積極的に活動をしていても理解につながっていない生徒がいる。	・ICT機器と見本を活用し、一方的な説明にならず、生徒が「参加している」と思えるような場面を多く設ける。
・実生活とリンクして考え、学習を実感するに至っていない生徒がいる。	・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導する。

(技術・家庭) 科の目指す生徒像

ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

(技術・家庭) 科の取り組み [授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・授業での発問やワークシートを工夫し、繰り返し取り組む姿勢を育む。 ・日常生活の中にある事例を授業で取り上げ、技術・家庭科の学習内容が生活に関連しているという実感をもたせる。	・ICT機器と作品見本を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させ、実習時間を確保し、関心・意欲を向上させる。	・グループ学習を取り入れ、互いの意見や知識を発表しあい、新たな気付きや発見を得られるようにする。